京城藥報

韓國の衛生 （社説）

韓國の衛生は何によりてか之れを定むるを得るや漠然として其由る所を知らずされど開國以來衛生に注目せしと未だ嘗て之れあらざらむ吾人は之れを以て何れの年を衛生の維新となすか

勿論母國とても維新以來衛生に注目せしならんも明治十年頃よりして二十年頃に至りて衛生上に注意し個人衛生公衆衛生等に政府は各府縣に命じ衛生の忽にすべからざるを訓示し衛生設備をなさしめ清潔法を勵行し病院を設置する等至らざるなく盡さゞるなく日清戰役頃に至りて各般の進步發達するに從ひ衛生の法は非常なる長足の發達をなし今や世界に於ける衛生事業の最も發達進步せる國とやなれり之れに據りて之れを見れば韓國の衛生は多少今より十數年前に胚胎せるならん然れども吾人は光武九年（明治三十八年）統監府設立を以て衛生の維新となすを適當なりとせん即ちこれも變化甚しく最も進步すべき一大時機たるを失はず之れ韓半島史上衛生につき特筆大書すべきなり、是れを以て變化甚しきものとせば之れに從つて百般の事物も亦從つて異ならざるべからず殊に建國以來衛生事業の何の設備なきものは豈に之れを放任すべきか必ずや適當の人物を得て最も適當なる設備をなすこそ急務中の急なりと信ず母國にては明治維新以來衛生の爲め盡せし事業は實に大にして非常なる苦心と熱心と巨金の三大力によりて成功せしは吾人の論を俟ずして明なり然らば韓國を文明に導き國利民福たらしめんには必ずや衛生設備を完全にし疾病を未發に防ぎ人民の健康福利を增進するこそ眞に衛生の本義ならむ即ち四十年前の母國の衛生そは如何にありしや今より想像せは想ひ半ばに過ぎん然らば此際充分適當の人物を得て設備せばそれ或は今後韓國衛生は必ず見るべきものあらむ希くばこれが設備費に吝ならざらんことを吾人の眼に映ずる韓國の衛生は概してゼロ也然れどもこれ獨り韓國をのみ笑ふべからず咎むべからず淸國然り滿州然り四十年前の日本數十年前の歐米先進國皆然らん然ば吾人は如何にして韓國衛生の完成を豫想するや衛生の事業は國家として困難の大事業なり個人として口に言ひ易く行ひ難きことあるは世界史上に徴して明かなり殊に開國以來頑冥にして衛生の進を知らざるものをして最も懇切に最も徐々に說き着々實行して了解せしめ向進んでは其設備を完施せしめることこれ實に困難中の最難事なるも之れをして現時の儘に放任せばそれ何れの日衛生の進步を望むを得んや吾人は此際模範的に邦人は之れが設備を實行し韓人をして其善良なるを自ら知得せしめ進んでは實施せしめざるべからず

明治維新衛生の大事業をなせしは故長與專齋翁にして天下の衛生の大任を双肩に負ひたるにあらずや其後後藤男ありて其要路に當り時に或は衛生上の欠點なきにしもあらざるも今日の發達をなしたるは疑ふべからざる事實なり其他之れを輔けしは石黑男の如きは專ら陸軍部內にありて高木男は海軍部內にありて公衆衛生の爲め盡されしは既に世人の知る處其他數十名の醫藥學博士連之れが要樞にありて明治維新の衛生を完成せしものなりされば如何にせば韓國衛生の完成を期するか之れ一日も忽るべからざる大問題なり單に之れを韓人にのみ放任すべからず殖民地として母國は大に研究せざるべからず實施の位置に立ち指導せざるべからず衛生學者にのみ賴るべからず官民進んで之が研究に從事し一日も早やくこの不健康の地たる韓國をして健康地たらしめんには此際一大果斷をなし巨資を投じ衛生の普及衛生の設備せられんことを望ましく韓國衛生の維新大業其緒につき大成するを得ば兩國民の永く其恩に浴することを得て健全に身体を保ち活動せば何事業に從事するも成功するを得む歟

論説 日韓藥品貿易論

在京城 旅水生

（一）藥品需用の狀況

韓國に於ける洋藥の使用始めは今より廿三年前米國人醫師某氏外部にありし時洋藥を韓人に投藥したるを以て始とすと傳ふ之れによりて之れを見れば近來の事と云ふべし即ち我日本にても其頃は洋藥を使用せしこと今日の如からずして使用額の少額なりしや論を俟たず然るに現時の日本に於ける藥品の需用は非常なる巨額にして國內にて製藥事業進步せるに拘らず年々數百萬圓の輸入藥品ありと云へば韓國に於ける洋藥の需用も亦日本の如き順序を以て增進するや明かなり然り而して洋藥は如何にして如何なる方面に幾何の需用あるを調査するを要す先ず吾人をして云はしめんは左の數項に分ち研究するの適當なるを知る

第一　本邦人移住者の增加
第二　本邦醫の移住
第三　韓國醫藥學の發達
第四　日本藥種商の增加
第五　將來化學工業の發達

を以て大原因とす以上の四項に揭げたるものは洋藥需用增加の原因たるや論を俟たず今之れを韓國の主府たる京城にて調査せんか未だ正確なる統計表なきを如何にせん然れども京城に於ける大病院の藥品消費高と大藥房の販賣額等により推測せば現時の藥品需用の狀況を略ぼ知ることを得從て之れを以て稍々信に近きものと推察せざるべからず

本邦人移住者の增加日に月に其數を增し永住者あれば從て日本醫の移住となり邦醫の移住は藥品の需用增加の[illegible]增加となり韓國人の[illegible]度用ひて効力ある藥品を[illegible]信じ使用す例へば雛鷄キニ子ー（金鷄納）サントニ子ー沃度加里（ヨ[illegible]ツトカリ）等の如きは目下盛に使用せられつゝあり韓國醫藥學の發達は亦我藥品の輸入增加すべき期して待つべきなり即ち我日本明治維新に蘭學輸入頻て醫藥學輸入せられし以來醫藥學を研究するの士日に月に增加し今日既に四万有餘の醫師四千有餘の藥劑師ありて盛に洋藥を消費せるが如く其當時日本は年々歐米より數十万乃至數百萬圓の藥品輸入を仰付けるが如く今日の韓國醫藥學進步發達し韓內地樞要の地に開業するに至れば日本現時の如く藥品の需用增加するや明かなり既に韓國に於ても十數の士は明治二十七八年戰役後醫藥學を研究し今や韓國衛生界樞要の位置にありて洋藥を使用し或は亦藥學者として育英の業に從事せるにあらずや斯の如く進步せる士のあれば其將來の需用增加すると明かなり即ち韓人口は諸學者の說區々にして正確なる統計表なきも吾人の信ずる處にては一千万人以上は必ず有るを信じて疑はざるなり即ち我母國の約五分の一と見做せば大差なし斯の如く多數の韓人をして現時の草根木皮否々祖先以來父の時代まで使用せし靈藥を捨てゝ洋藥を需用するに至れば年々需用を增加するは前五項に揭げたる原因に基し韓國醫藥學の發達は益々洋藥の需用增加を促すべきなり

斯の如き狀況により現時にても年々京城の藥品消費二拾萬圓有あり仁川、釜山、元山、平壤等其他地方の需用を通計せば恐らくは七八十万乃至殆んど百万圓に近き需用あるを信ず然らば韓國藥品の需用も決して少額ならざるなり況や日進月進の韓國に於ける藥品需用の將來は必ずや前途有望ならん

◎韓國藥劑師會

韓國藥劑師會本部

會報第一號（明治四十一年二月十一日）

二月九日午後一時より京城小學校講堂に於て第九回定會を開く

出席者（十三名）

兒島　中尾　渡邊　五味　板垣　武川
土井　岡部　古賀　川瀬　田中　木村

欠席豫告者（五名）

川又　田淵　松村　服部　福島

欠席通知なきもの（四名）

近藤　宮早　鬼頭　濱口

兒島會頭は前會に於て渡邊田中の兩氏を會則起草委員に指名依賴したるに兩委員より會則の原案提出せられたるを以て本日は定會なるが總會と見做し審議すべきを各出席者に諮りたるに異議なく會則原案を審議することゝなり會議に移る

田中起草委員は會則起草に關する經過及其要領を說明す左の如し

（一）會の組織に就て第三條の區域を定めたること（會則參照）第四條の支部設置第五條第一項の名譽會員贊助會員を設けたる理由

（二）舊會則の理事長理事を廢し第七條の役員を設け殊に理事評議員を區別せず理事中二名をして會務を掌專せしめたる理由

（三）第九條に於て會議を區別し又其成立を規定し但書の除外例を設けたること及役員會の成立並に役員の任務を尊重し除外例を適用せざること等會務の進捗を簡にせし理由

以上三別して改正の理由を報告せり

兒島會頭起草委員の報告に依り該原案の要旨は說明せられたるを以て之れより原案に付き諸君と逐條審議に移らん事を諮り異議なく逐條審議に移る

中尾氏渡邊氏古賀氏板垣氏川瀬氏土井氏木村氏等より提議修正說交々發議せられ別紙會則（第二號京城藥報）決議制定せらる

會頭は本會則を直に本會に實行し差支なきやを諮りたるに滿場異議なく議決實行する事となれり

田中理事　前會に於て會頭に兒島氏副會頭に中尾氏を選擧し既に御承諾を得て就任せられたる者なれば會則の改定に伴ひ前會に當選したる理事二名評議員三名は其選擧に就て無効となりたるを以て更に新會則に依り七名の理事員を再選せられんことを望む

兒島會頭は各員に諮り異議なく無記名投票に依り左の七氏當選す其成蹟左の如し

十二票　渡邊悅之輔
十二票　田中實
十一票　松村謙
十票　板垣懋
九票　木村龍吉
八票　古賀慧五郎
八票　川瀬市五郎

（以上當選者）

五票　武川彥四郎
四票　五味尙幸
三票　濱口源太郎
三票　田淵芳太郎
三票　近藤佐五郎
二票　岡部幸雄
一票　鬼頭錦助

兒島會頭は投票の結果當選せられたる諸君は就任せられんことを望まれ異議なく各員就任せられたり

兒島會頭會則第七條第四項に據り專務理事として渡邊悅之輔君田中實君を指名し二氏就任を承諾せられたり

本會の役員左の如し

會頭　兒島高里　副會頭　中尾源二郎
專務理事　渡邊悅之輔　田中實
理事　松村謙　板垣懋　木村龍吉
古賀慧五郎　川瀬一五郎

兒島會頭約則の制定に伴ひ本會の役員も決定せり諸君に於て考へらるゝ提議あらば提出せられんことを望む

中尾副會頭　本會が會則を新にし役員を改選し今や洋々として大に發展を期するの時機に際し諸君に諮らざるべからざるは金の問題にして發展を希望するの裏面には金が伴ふこととなれば今に於て本會の基礎を强固ならしめん爲めに本會に適當の基本金を作るべき必要ありとの理由に依り提議せらる

兒島會頭　中尾副會頭の提議に付出席各員に諮りたるに渡邊、木村、川瀬氏賛成ありて各員一致基本金を作ることに決せり依て其基本金作成の方法は委員として渡邊木村田中の三氏を指名するを以て次會に其方案を提出せしむること及び曩に議決したる會則中一ヶ條として本會に若干の基本金を準備することを追加せしむることを各員に諮りたるに異議なく可決す

次回は出演者として會頭は左の三氏を指名す

渡邊悅之輔君　安井文造君　五味尙幸君

討議題

韓國に於ける飲料水の衞生的試驗の判決標準　原案者　五味尙幸君

以上次回の出演者決議題を決定し散會

會報第二號（明治四十一年三月二十五日）

韓國藥劑師會本部

三月二十五日午後一時より京城小學校講堂に於て第十回の定會を開く

出席者（十二名）

兒島　渡邊　五味　板垣　岡部　土井
服部　川瀬　古賀　田中　劉　歌原

欠席豫告者（五名）

木村　濱口　福島　田淵　武川

欠席通知なき者（四名）

近藤　宮早　鬼頭　川又　安井

中尾　松村　出張中

午後一時三十分開會

兒島會頭は前會に於て中尾副會頭の發議に依り諸君と協議の結果本會に適當の基本金を準備することを決議し其決議に依て基本金額及其他の方法を渡邊、木村、田中三君を委員として成案せしめたるに委員諸君より提出を見たるを以て是れより該案に就て諸君と會議を開く旨を宣告す

委員田中實は委員會の經過及び別議の要領を說明す

議案第二號

細則第九條の修正

第九條會則第十四條に規定せる本會基本金は正會員醵出金及び其他會員の寄附金より成り其醵出保管支出の方法は左項の規定に依る

第一項　正會員の醵出金は一株金三圓として現在會員より約四十株を募集す

但し新に入會する者は一株以上負擔する義務あるものとす

第二項　基本金は專務理事をして銀行預金として保管せしむ

第三項　基本金の支出は理事會の決議に據る

但し此場合に於て專務理事は本部全會員に通牒すべし

會議の結果

板垣君の動議に依り第二項の修正說出で會議の結果第二項を左の通り修正し其他は原案の通り通過決議せり

第二項　基本金は會頭の名義にて銀行預金とし專務理事をして其通帳を保管せしむ

田中專務理事より基本金の各員出額及び其納期に就て發議ありて左の通り決議す

一、會員は各自其支出すべき基本金の株數を四月定會前までに田中專務理事に通知すること

一、基本金は七月三十一日を以て締切るものとし會員は其期間に一時皆納若しくは分納すること（田中專務理事取扱）

依て第十回定會に欠席の會員諸君は至急田中專務理事迄其醵出株數を通知ありたし

兒島會頭　基本金に關する會議は議了したれば是れより講演に移る

第一號

食料品の貯藏附冷藏熱藏の經驗談

歌原寛靖君

要旨

同君は財政顧問水產部の事業として年來釜山に出張し生魚の冷藏運搬の實務に當り生魚精肉の貯藏運搬に就て實驗談を演述せられ一般に特殊の趣味を與へられたり又殊に鯛類の色素を保存する樟の鉋屑の有効なるを稍銀の防腐に氷炭末を應用しだる實例に依り防腐有効なりしも外觀を損ずを以て適當改良法及び前樟屑の樹脂の研究を宿題とせられたり其他一般硼砂硝劑の腐に應用して不成蹟なると赤色魚に明礬を應用して不經濟なる等凡て經濟に完全に

第二席．討論

牛乳の良否判決　原案者　渡邊悅之輔君

要旨

原案者は牛乳の良否に就て單に牛乳の理化學的試驗成蹟にのみ據り良否を判決せず牧場牛舍の構造及び牛の種類に重きを置くべしとの論點にて反對論なく討論するに至らざりしが五味田中の提出に基き再應の調査を施し韓國に於ける乳牛及牛乳に制裁を加ふることとし會頭より委員として五味、坂垣、古賀、渡邊の四氏を指名し調査の上報告すことゝせり午後四時閉會

會報第三號（明治四十一年四月廿五日）

韓國藥劑師會本部

四月十九日正午十二時より龍山陸軍用地內にて野遊會を催し午後二時より韓國駐箚軍陸軍倉庫官舍中尾藥劑正宅に於て第十一回定會を開く

出席者（十五名）

兒島　中尾　板垣　木村　川瀬　土井
宮早　古賀　服部　田淵

韓人

劉世煥　康大楨（贊助會員）
尹泰夏（贊助會員）　李應齋（同）
金相毅（贊助會員）

新入會者

（正會員）鳥居嚴次郎君　（正會員）烏山貞雄君

欠席者

渡邊　田中　松村　五味　武川　岡部
安井　川又　福島　近藤　鬼頭　濱口

兒島會頭は本會は諸君の熱心により今日の發展をなし基礎强固となり韓國藥學藥業に韓國衞生界の爲め貢獻するを得たるは今

一行五號活字十九字詰十錢

編輯兼發行
印刷人

の欣羨に堪へざる所なり就ては尙將來本會を發達せしめんには韓人の藥種商を導き又其子弟を敎育するは我々韓國藥劑師會の義務なれば是非とも其目的を達したくあれば韓人藥業家を贊成員に加入せしめて指導せば本會の目的を達するのみならず彼日韓國の衞生の發達を助け藥學藥業の進歩に資する所少からざらんとす諸君の贊同を仰ぎたしと述べられ滿場一致贊成し劉氏韓語に通譯し來會韓人に告げられたり

會頭は劉氏をして贊助會員入會勸誘を委託せらる

既に二時半兒島會頭は統監の園遊會に招待せられたるに付き中尾副會頭に席を讓り劉氏も亦同時に會頭と同行園遊會に招待せられたり

中尾副會頭は會頭席につき兒島會頭の述べられたる趣旨に基く韓人を招待せんには如何なる方法手段を取るやを會員に計りたるに會より會の趣意書を添へ招待狀を差出す事に決せんとの發議により出すことに議決し人員を調べたり

藥劑師島所藏次郎氏藥劑師鳥山貞雄兩氏は正會員に康大植、尹泰夏、李應適、金相稷は贊助會員として入會

それより談話會に移り藥品取締につき會員の趣味ある談話を交換し大に其研究すべき問題なるを深く感せしめたり

本日缺席者の多かりしは統監の園遊會と同時間なりし爲め會員中招待せられし諸君の多かりしに因るも韓人の新入會者出席多きは未曾有しく將來本會の發展上大に祝すべき事にこそ一同愉快に話し散會す時に午後三時三十分

○第一回理事會　四月廿五日午後六時より田中實宅に於て開會出席者兒島會頭田中、渡邊の專務理事、板垣、木村、古賀の三理事出席贊助會員募集の件其他附帶要件につき議決し午後九時三十分散會

○有功會員推薦　四月中下山藥學博士の山口、大分、福岡、佐賀、熊本の各地方巡廻に際し左記十八氏は特に藥學獎勵の爲め各金一百圓宛を日本藥學會へ寄贈す孰れも同會に於て有功會員に推薦せられたり

左記十八氏の藥學獎勵に向つて金員を喜捨せらるは奇特なるは勿論なるも下山博士の何時もながら藥學進歩發達に盡さるゝは吾人の多とする所なり

山口縣	熊野勉造氏
同	岩本美助氏
同	藤本隆次郎氏
同	河野又次郎氏
大分縣	島田清次郎氏
同	志賀恒太郎氏
福岡縣	波多江嘉兵衛氏
同	德島蜂太郎氏
佐賀縣	野中萬太郎氏
同	草場猪之吉氏
熊本縣	渡邊敬衛門氏
同	早川宇太郎氏
同	渡邊宗太郎氏
同	高濱龜八氏
同	橋本壽七氏
同	中村猶一氏
同	田中彥左久氏
同	野口晧次氏

○大韓醫院の增築　大韓醫院敎育部にては生徒入學者多くして敎室狹隘なる爲め新に敎室を增築又事務室をも同樣增築する由

○京城衞戍病院長　韓國駐箚軍司令部軍醫部員たりし二等軍醫正山田太郎氏は今回京城衞戍病院長に就任

○藥品小分實營　內務省大阪衞生試驗所にては從來藥品試驗の出願に對しては其總量に於て之が分析試驗を行ひたる上同所構內に於て出願者に小分をなさしめ試驗濟の印紙を貼布し來りしも中には巧に不正藥品を混合するものあるやの疑ひ生じたるより茲一二月の後より相當の手數料を徵し悉皆之が小分を行ふことに決し其準備として頃日數名の技術者を雇聘したり之が爲め或は一時試驗出願の數減ずるやも計られざれど一方他に藥品取締巡視の勵行さるゝあれば不正藥品撲滅策としては最も時宜に適したるものなるべしといへり

○學位授與決定　豫て報せし如く論文提出して藥學博士の學位申請中なりし慶松、近藤、石津の三藥學士は愈々不日授與せらるゝに決したる由藥學の前途益々有望にして後進の士の獎勵となるや必せり

○衞生工事課の移轉　元度支部水道局は官制改正の結果內部土木課に合併せられ同局の一分課衞生工事課として事務は依然舊度支部廳舍構內に於て執りつゝありしも執務上不便少からざるを以て今回內部構內なる元治道課廳舍にして現今土木局となれる事務室に修繕を加へ近々同所に移轉する筈

○京城醫學總會　京城醫會の春季總會は四月八日午後三時より龍山八景園にて開會來會者二十餘名、古城會頭の開會の辭楢村氏の會務報告ありそれより宴に移り席上有益なる談話を交へ和氣藹々裡に九時過ぎ散會

○仁川藥業者の集會　同業組合組織の爲め仁川商業會議所にて四月十六日同所內に藥業者を招集して協議せしに集會者少かりしは遺憾なりとの通信ありたり

○醫師と產婆　京城理事廳管內に於ける開業醫師及び產婆數は醫師四十四名產婆三十五名計七十九名なりといふ

○仁川野犬撲殺統計　一月二十七日開始以來三月卅一日迄にて牝犬九十一頭牡犬百十頭合計二百一頭に達し非常に好果を擧げたりといふ吾人も野犬撲殺の勵行は常に唱へつゝある所以上の好果を得たるを喜ぶものなり

○能勢博士の歸朝　漢城病院長能勢靜太氏は病氣の爲め辭職歸朝せられたりといふ良國手の歸朝は實に惜むべきも如何ともすべからず博士幸に療養を加へ健全たらんを祈る京城民團よりは金壹千圓の慰勞手當を送られしといふ四月十九日南大門發歸朝見送り人の重なるは木內次官、藤田軍醫監第十三師團軍醫部長、京城衞戍病院長民團長、小山技師、佐々木醫學士、兒島醫學士中尾藥劑正、醫師、藥劑師及び漢城病院職員一同なりき

○久保醫學士　四月十五日より能勢氏宅滯在中の釜山久保病院長の同氏も能勢博士と同乘歸釜せられたり

○鍋田醫學士　福岡醫科大學外科部助手たりし醫員鍋田重氏は漢城病院副院長として四月廿五日着任せられたり

○仁川新井虎太郎氏　氏は四月十七日京城支店商況視察として入京翌日歸仁

○日韓郵便速達　通信管理局は郵便物速達の新計畫を立案し實行する事となしたるが要は從來日韓間の連絡交通一晝夜一回なりしより從つて郵便物の發着も亦一晝夜一回なりしを四月一日よりは連絡船增航夜行列車增發の結果日韓間の郵便物も亦た一晝夜二回宛双方より發送することゝなりたりと

○三木藥劑師着京　日本藥事協會常議員たる三木勝太郎氏は大韓衛生試驗所技師として四月四日着京氏の如き博學敏腕の士の入京は韓國藥界の爲め祝すべき事にて吾人は一日も速やく同所の開始せられんことを希望するものなり

○土井藥劑師の名譽　土井藥劑師は過日關西藥事協會に於て名譽會員に推擧せられたりといふ

○選科同窓會　東京醫科大學藥學選科同窓會にては十一日午後六時より上野公園常盤華壇にて總會を開き懇親會を催したり同會員にて獨逸へ留學者二名米國へ留學者二名外國人にて同窓者はブーランシング氏セキソン氏劉世煥氏等ありて基本金六百六十九圓餘は募集中在京城同窓會員古賀藥劑師は金拾圓を寄附せられたりといふ

○在京山本氏の通信　同氏は大學選科專攻中なるが四月十六日附にて京城藥報の發刊を祝し藥界の爲め永遠に健在を祈る尚朝比奈弘世兩藥學士へ本紙の爲め盡力せられんことを依賴し置きたりと云々との通信ありたり

○水谷藥劑官　一昨年來韓國にありし同藥劑官は最も韓國の事情に通せられ尚各方面に研究せられつゝありしを以て本社は同官へ研究說掲載を申込みし處快諾せられたれば次號より掲載して讀者の一讀を乞はん

○全國藥業新聞雜誌記者大會　いよいよ四月十六日東京神田區明神境内開花樓に於て開會議事終了の上午後六時より同所にて懇親會を催ふしたりといふ因に本社へも東京藥業新聞記者倶樂部全國藥業新聞記者懇親會よりして出席の件紹介ありしも遺憾ながら創業の際なるを以て出席兼ねたるを同業記者諸君に謝す

社告

本社去三月第一號發刊以來日韓各地の愛讀諸君より種々の厚情を給はると創業の事とて萬事不整頓なるは誠に慚愧に堪へざる處爾今我社は日韓藥業界の進步發達に資せんことを期し愛讀諸君の厚意に辜負せざらん而已

發行所變更　本社は業務發展上今般**京城南大門通三丁目十四番戶**に移轉す

寄稿を歡迎す　藥事に關する論說學說及び通信文苑の寄稿を歡迎す每月廿五日迄御發送を乞ふ

廣告　藥業衛生に關する萬般の廣告の依賴に應す每月廿日迄原稿發送ありたし

明治四十一年五月三日

京城藥報社





韓國藥界の人

あしのや主人

○川瀨一五郎君　京龍の藥界は大に振ひつゝあり斯界の名物男藥劑師一五郎君の如きは朝日の出を見る斯界に其流暢なる辯舌と君特殊の態度を以て縱横に切りまくらんとせ君は愈々將來發展の龍山に藥房を開き漢城病院にて練たる腕を再現しつゝあり願くば有爲の君！　京龍の藥界は實に前途有望なり他を視るを要せずして可なり大手腕家たる一五郎君益々猛進せよ

○木村龍吉君　大韓醫院藥局に四名の藥劑師あり外交家にして技術其者より寧ろ社交に老けたるが如きの觀を有すこれを陸軍三等藥劑官正八位勳六等木村龍吉君とす上に温厚なる氣慨を指せる學士兒島藥局長を有し其馬頭山下の藥局にあり斯界に其体面を辱しめざる君の手腕に至つてはあしのや主人も驚愕する處離惜ひらくば流暢なる能辯家ならざるを

○板垣懋君　馬頭山麓大韓醫院藥局に其人ありと知られたる君は極めて緻密なる頭腦を有し經驗ある藥劑師としてあしのやの敬服する所なり大韓醫院藥局の整理せる長兒島學士あるに基因すると雖も懋君の輔佐の著しきを覺ゆ君は即ち職務に忠實なるの人韓國藥劑師會理事者の一人として會務に熱中せらる君益々斯學の爲め自重自愛せよ

○地方長官會議と衛生事項

四月十日より東京內務省に開會の地方長官會議に內務大臣より諮問若くは訓示されたる事は事項の主要なるもの左の如し

一、コレラ豫防方針

昨年各府縣に流行せし虎疫は晩秋に至りても散在性に發生し病菌の越年したる疑あり從て本年は重ねて流行を見るやも計られず依て本病に對しては特に注意を拂ひ嚴重に防疫措設を執るを要す

一、ペスト豫防に關する件

關西に於ける流行も昨今稍下火の觀あれども是亦安心して豫防法を等閑に附すべからず十分なる警戒を要す此際將に其の豫防法を怠る事なからんことを希望す

一、トラホームの豫防

各府縣等しく熱心に從事し居れども未だ良果を得ず今後も充分に豫防及撲滅策を考究すべし

一、種痘法の普及

今春以來各地共天然痘の流行を見たるが之れ畢竟種痘法の精神が一般に普及せられず且つ法の勵行が十分ならざりしに因るべし故に此際種痘法に不備の點ありて改正を要すると認めらるれば宜しく其意見を提出すべし

一、花柳病に關する件

花柳病の撲滅を計るは實に刻下の急務なるが近來益々此蔓延の勢甚しきを見る之れ公娼檢黴法の不完全なるが爲か將た他に其原因あるか各自の意見を求む併し其の孰れにせよ此際特に注意し殊に軍隊の新に屯す地方に在りては十二分の注意を拂ひ之れが豫防撲滅に盡力せられん事を望む

以上の外藥品巡視に關する件工場衛生に關する調査等に對し各地方長官の意見を徵し又訓示する處あり尙地方長官側よりも協議事項として提出せられたる衛生事項數十件の多きに達せし由

○醫家寶典　清國北洋醫官古城梅溪氏纂譯の醫家寶典は漢文醫籍の嚆矢とも稱すべきものにして其內容は上中下篇に分ち上篇には內科摘要中篇には外科摘要下篇には醫家備考附錄には和漢洋藥名對照表あり醫藥界の人士の一讀すべき價値あり京城發賣所は京城本町四丁目贊化堂古城藥局とす

陸軍衛生部員の敍勳

特敍勳三等旭日	三等軍醫正	村上	潔
同	同	高井	貞治
特敍勳四等	一等軍醫	甲斐	四郎
同	同	宮崎	泰治
敍勳六等	一等看護長	山下	勇次郎
同	同	萩原	義雄
同	同	本田	彌作
特敍勳七等	看護人	前川	武一
同	同	西本	與作

各賜八卦章 特敍勳三等	陸軍二等軍醫正	中川	十全
同　五等	二等軍醫	氏家	三顧
同	同	牟田	熊彥
同　七等	三等看護長	杉本	保太郎
各賜太極章	（以上四月九日付）		

散石青葉

南山にて　柳葉

人は宿れる運命に支配せられ、出來もせぬ空想に耽り、及ばぬ戀に夢みて、五十の星霜を過ぎ來りし時我れに返れば其空想も戀も若氣に早りし浮華の夫れ、若き時の考へは全く一物だも得られぬに心付き、理想の戀を味ふ時の無かりし事を悔み人生は朝露の如きを悟りつ時は最早死と云ふ惱みに心迷はさる嗚呼悲しき極みにこそ、青春花ゆる時代には前途に金剛石の山が我れを呼び迎ゆる如く想ひ如何なる事もなし遂げらるゝと誇りも思ひもせしを、這は一瞬の夢社會を知らざる若き身の誤やき業社會てふ大洋に泳ぎ出せば雅まく波浪に弄ばれ、人なき渡邊に押上げられ、あるは降灌なき波上に四方を視ても何の影だになき中の唯一人何處に取附く島もなく呆然と漂つる其心裡の苦しみ、誰れに語らん術もなき憐れさよ、そは云へ悲しみの境に陥れば猶あせり悶ゆれば悶ゆる程心のいがみの増すばかり嗚呼語らんとすれども語るにはかなき我は孤獨番窓に凭だれ深夜過ぎ去りし悲慘なる我身の果敢なさが胸に浮べ不知血涙の下るを、嗚呼人生行路の難なる、嗚呼運命の詮なき、不遇なる哉我身の運命



藥報俳壇

永日
貫之を如何に過しつ日永哉　玉川
田舎源氏なかば讀むに日永哉　可酔

雲雀
煮さましゝ茶受の空に雲雀哉　櫻水
大八洲呼渡りけり揚雲雀　可酔
雲雀啼て鼓の商し大徳寺　同
雲雀啼て大臣床机を立たせけり　同

田螺
過ぎし世のこふ田螺の啼きごろ　同

猫の戀
初戀や猫も谷中の田甫道　櫻水

若鮎
若鮎の上るも多しさゝ流　櫻水
若鮎や一の祝を上ケ文使ひ　可酔
若鮎や取るへからず札の立　玉川

海苔
海苔あぶる膝に産衣の罷かたり　可酔
施amo屋は海苔の産地を開く學者　玉川

春の月
春の月換香を聞かす知ロの海　可酔
春の月浦声船に武士の笛

陽炎
陽炎立て道を還ひけり小川盤　可酔
陽炎や松の太夫の裳より
陽炎や幟の松に馬子二人り　可酔

春の風
高幟ひの子の足立や春の風　玉川
春の風供養の塲の濛の　可酔
供待の轎凝さます春の風　香霧

凧上り
公達は車も止めて凧上し
凧高し三日月低し川原道　可酔
車から凧の行京を數へけり

春雨
馬子渡る橋いさ浸し春の雨　松花
清淡のつきぬ隣れ家春の雨　香霧
春雨や長者の軒に鶉啼く　可酔
朝動ふた家に居すみや春の雨
春雨や朝臣たしなむ笠の雫
傘指て遊ぶ臣子もあり春の雨

櫻
谷間にも小唄のきこゆ櫻狩　可酔
紅絹裏の裳を見へて櫻狩
美田なくて我に勸樂の櫻かり
谷越て行人あり櫻狩

春野
春の野や女夫斗りの麥畑け　玉川
渡し底はもふ一里を春の野邊　可酔
物見なり佇女が泣けり春の野邊　同

瓢
瓢拭く膝に小三毛が眠りけり　可酔
瓢貸さう張札しけり美人茶屋
瓢拍て美髯の老は謠ひけり　可酔
今日一日瓢美人の手に持たれ

春の駒
肥馬嘶て行くしげし雪解川　可酔
吹上の流儀きそうや春の馬
木曾の春こたまに走る駒の蹄　可酔
駒嘶きて蹶きゝぬ岐れ道
待てしはし走らず歩め春の駒

桃
桃の客風流の徘徊師　可酔
桃咲くや山姥までも化粧して
桃はまた九十九折なす山の春　可酔
空想の實は結ばれつ桃の夜
空也れば垣越に開く桃の里

朝の蜆
けさの雨祇園町川岸に蜆買り　可酔
朝露を夢に京都の金閣寺

商況（京城）

四月の藥業界は前月より多少活氣を帶びしを見受けられ官衙病院等にては年度かわりしため多少の買入れあり従て二三の茶店は其需用に應せんとし若樹多き模様なり移住者も々入り込み暴徒も鎮りつゝあれは韓國内地よりの顧客もボツ〳〵出て來り何となく好景氣を呈せり

○賣藥は花柳病多き爲めか毒滅ドクトリ丸唯一丸等賣行よく滋強丸の如きも韓人には最も賣れ行きよきは奇なり清涼劑は仁丹寶丹清心丹等にしてゼムの如きはあまり韓人の嗜好に適せざるものゝ如し

○阿部藥劑師の開業　賛化堂藥局主任たる氏は機の來るを待ちつゝありしが愈々四月上旬より開局せられあり氏の成功を祈るや切なり

○四月中に渡韓藥業視察せしは大阪熊谷日の丸藥店主大島登喜堂店員谷回春堂堤尾藥劑師等なり諸氏の齎らす處や大ならん

日韓英藥名辭典

京城民團立漢城病院　古賀惣五郎編

英	韓	日
Oleic acid	유산	油酸
Phosphoric acid	인산	燐酸
Picric acid	필굴림산	必屈林酸
Salicylic acid	살리시이산	撒里矢爾酸
Sulphuric acid	류산	硫酸
Diluted sulphuric acid	희류산	稀硫酸
Tannic acid	단녕산	單寧酸
Tartaric acid	주석산	酒石酸
Hogslard	돈지	豚脂
Ether	의적아	依的兒
Dried Egg-albumin	건조단백	乾燥蛋白

廣告料　一頁 拾五圓　半頁 八圓

發行所　京城南大門通三丁目　京城藥報社

印刷人